

平成24年度 巢本小学校研究全体計画

【研究主題・副題】

伝え合い、考えを広げ深める子ども
—確かな読みの力を育成するための手だての工夫—

1 研究主題設定の理由

(1) 社会の要請から

中央教育審議会の教育課程部会における審議会のまとめ（平成19年11月7日）では、PISA調査の結果（平成16年12月）等に見られる学力低下、特に「読解力」「記述問題」の課題を踏まえて、言語活動の充実が求められている。

文部科学省から発表された読解力向上プログラムでは、次の3点が具体的な重点目標として示された。

① テキストを理解・評価しながら読む力を高める取組の充実

② テキストに基づいて自分の考えを書く力を高める取組の充実

③ 様々な文章や資料を読む機会や、自分の意見を述べたり書いたりする機会の充実

これらに基づいて読解力の向上を図っていくことは、思考力、判断力、表現力を培うことをめざす「生きる力」を育むことにもつながるものと考えられる。

また、学習指導要領の国語の目標では、国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成するとともに、人間と人間との関係の中で、互いの立場や考えを尊重しながら言葉で「伝え合う力」を高めることを位置づけている。

(2) 教育目標の具現化から

当校では、「考える子 助け合う子 たくましい子」を教育目標として掲げ、「積極的にかかわり合い、学び合い理解を深める子（知）、自他のよさを認め合い、互いに思いやり支え合う子（徳）、健康な体づくりに進んで取組み、体力を高める子（体）」の育成を目指している。

かかわり合い、学び合う際には、自分の考えを表現し相手に伝えることと、表現された相手の考えを理解する二つの側面がある。これが、伝え合いである。また、「伝え合い、考えを広げ深める」には、互いの考えを認め合い、互いを大切にできる人間関係を築くことが必要である。このように、「伝え合い、考えを広げ深める子ども」の研究を推進することは、教育目標「考える子」「助け合う子」の具現につながるものである。

(3) これまでの研究の経緯と児童の実態から

当校では、昨年度から「活用できる読解力を育てる国語科学習の創造」を主題に掲げ、国語の読解力・表現力を高めようと、授業改善・授業実践を重ねてきた。このような積み重ねにより、児童は読み取ったことを基に自分の考えを書くことは概ねできるようになった。しかし、論理的な読み方を通して全体で考えを交流し検討しても、それを生かして考えの深まった記述となっていない児童が多く大きな課題となっている。

また、昨年度のCRT学力調査（国語）の結果では、全校の平均得点率は全国平均より1.8ポイント低く、4つの領域全てにおいても、全国平均より得点率は低い。特に、「読む」に関しては、-3.5ポイントと他の領域に比べ、依然として落ち込んでいる。より一層の「読む力」「伝え合う力」を育成することが急務となっている。

2 研究主題及び副題が意味すること

(1) 目指す子ども像

研究主題の「伝え合い、考えを広げ深める子ども」を

自分の考えを進んで伝え合うことを通して、互いの考えを広げたり深めたりして、共に学びながら問題を解決しようとする子ども

と、捉えた。

考えを伝え合うことは、自分の考えを表現することであり、相手の考えを理解することである。また、ここには、「自分の考えを伝えたい。」「相手の考えを知りたい。」という関心・意欲が大切になってくる。

考えを広げるとは、「考えの付加」（〇〇と考えていた。似ているな。それも、私の考えに付け加えられる。）や「考えの拡張」（〇〇と考えていた。△△さんの考え方も分かる。〇でも△でもよいのではないか。）をする姿である。

また、考えを深めるとは、広げた考えを再構築し、「考えの強化」（そのような考えも分かる。でも、～の理由で、私の考えは変わらないで〇〇である。）や「考えの変容」（〇〇と考えていたが、～の理由で△△と考える。）をする姿である。

(2) 副題が意味すること

国語科において、言葉を通して自分の考えを表現したり、相手の考えを理解したりするには、「確かな読みの力」を育成することが基になると考えた。これは、次の二つの力である。

① 正しく読み取る力【習得する「読む力」】

……書かれていることを的確にそして想像豊かに読み取ること

② 自分の考えをもち、表現する力【習得した「読み」を活用する力】

……自分の考えを明らかにし、様々な方法で表現すること。

この「確かな読みの力」を育成するための手だての工夫、授業改善をしていくことにより、主題から捉えた以下のような子どもの姿を目指していく。

- 読みを深めることに関心を持ち、進んで伝え合おうとする子ども
- 読みの観点や方法を理解し、叙述に即して正しく読み取る子ども
- 根拠を明らかにしながら読みを深め、自分の考えを書いたり説明したりする子ども
- 考えの共通点や相違点に気を付けながら聞き、伝え合う活動を通して、自分の考えを再構築する子ども

3 研究の内容について

次の視点から研究に取り組む。全学級での授業実践・授業改善を研究の中核にして、取り組んだ内容の妥当性や有効性を明らかにする。

(1) 確かな読みの力を育成するための授業改善をする

① 内容を正しく読み取る力をつけるための指導方法の工夫

（文学的文章の読み方…作品の設定、視点、表現技法、中心人物の変化など）

（説明的文章の読み方…要点、問いと答え、表現技法、三段構成など）

② 表現する力を育成するための指導方法の工夫

(2) それぞれの学年での習得させたい力の系統性や一貫性の検討をする。

※ 指導要領と教科書をもとに、一覧表を作っていく。

(3) 国語の表現力を支える日常的な指導の在り方を探る。

○ 国語の基礎基本の力をつけるための取組

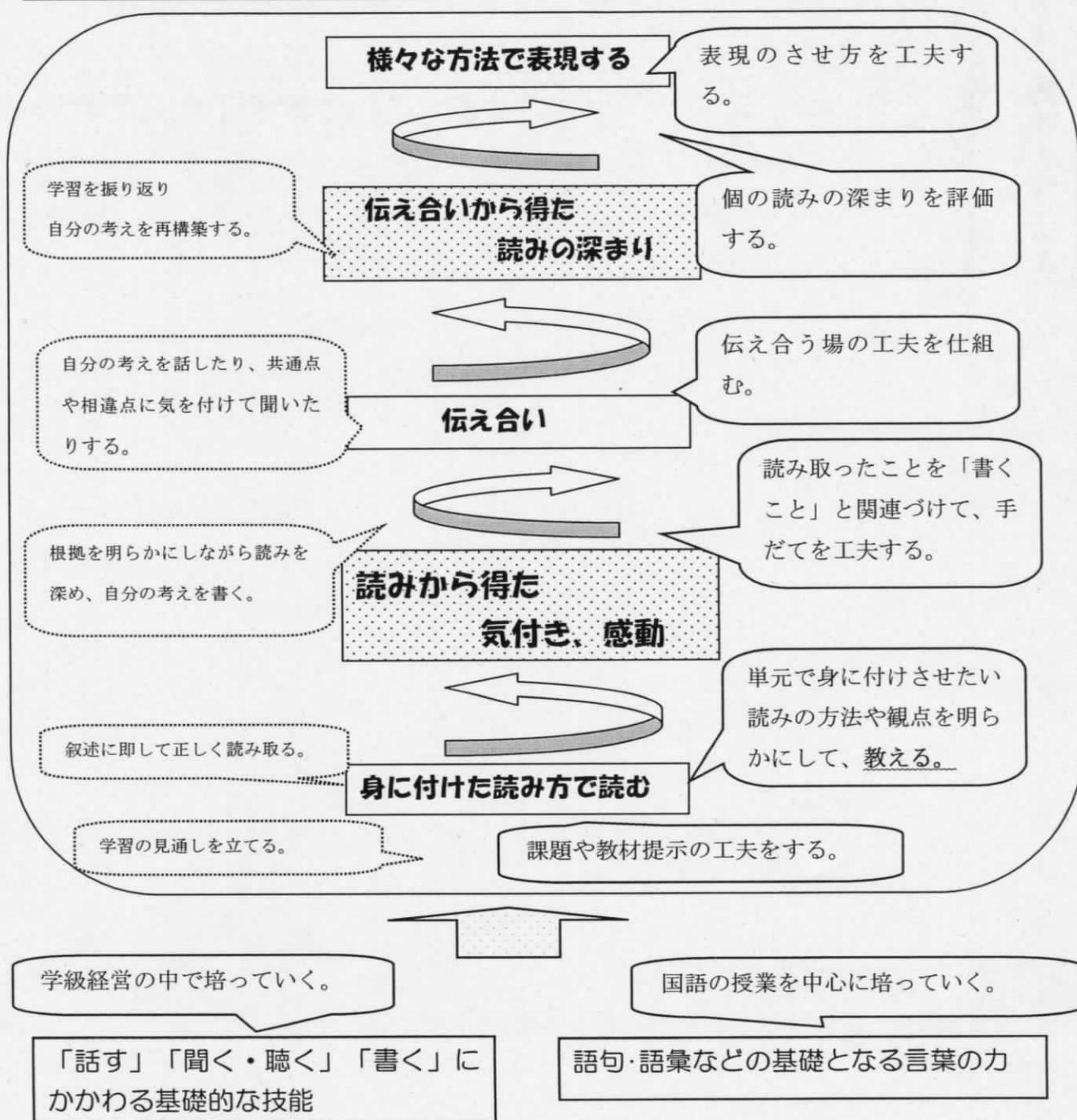
（語句・語彙などの基礎となる言葉の力を身に付ける）

○ 話し合い活動を支える「話す」「聞く・聴く」のスキルの指導と手だて

研究の構想図

自分の考えを進んで伝え合うことを通して、互いの考えを広げたり深めたりして、共に学びながら問題を解決しようとする子ども

- 読みを深めることに関心を持ち、進んで伝え合おうとする子ども
- 読みの観点や方法を理解し、叙述に即して正しく読み取る子ども
- 根拠を明らかにしながら読みを深め、自分の考えを書いたり説明したりする子ども
- 考えの共通点や相違点に気を付けながら聞き、伝え合う活動を通して、自分の考えを再構築する子ども



第4学年1組 国語科学習指導案

平成24年9月11日(火) 第5校時

授業者 小出 貴子

- 1 単元名 説明を工夫して、リーフレットを作ろう
教材名「アップとルーズで伝える」「『仕事リーフレット』を作ろう」

2 単元の目標と評価規準

(1) 目標

- ◎それぞれの段落が全体の中でどのような役割を果たしているかを考えながら読むことができる。
- ◎写真と対応した部分に注意して読み取り、「アップ」と「ルーズ」それぞれの特徴をまとめることができる。
- ◎関心のあることから書くことを決め、必要な事柄を調べることができる。
- ◎写真と文章を対応させながら、段落相互の関係に注意して書くことができる。

(2) 評価規準

<関心・意欲・態度>

- ・写真と文章を対応させて、説明的文章に興味をもって読もうとしている。
(発表の様子、ワークシート)

<読む能力>

- ・文章全体の構成と段落との関係を理解している。(発表の様子、ワークシート)
- ・写真と本文の対応関係を理解している。(発表の様子、ワークシート)

<書く能力>

- ・内容のまとまりごとに段落に書き分けている。(ワークシート、リーフレット)
- ・書くことの内容を明確にし、事例を挙げ、文章に対応した写真を用いて書いている。(ワークシート、リーフレット)

<言語についての知識・理解・技能>

- ・典型的な接続表現の意味を理解している。(発表の様子、リーフレット)
- ・句読点を適切に打ち、必要な箇所は行を改めて書いている。(リーフレット)

3 単元について

- ・教材文「アップとルーズで伝える」は、サッカーのテレビ中継を通して映像の取り方に焦点をあて、「アップ」と「ルーズ」という用語を具体的に説明している文章である。アップとルーズの違いがよく分かる写真が使われており、写真と段落の関連性を考えながら、語句の理解や段落の内容、対比的な説明、段落相互のつながりを学習することができる。本単元では、説明の仕方の学習を生かして、書く活動である「『仕事リーフレット』を作ろう」につなげていきたい。
- ・教材文「『仕事リーフレット』を作ろう」では、調べたことをもとにリーフレットを作成する活動を行う。その際、「アップ」と「ルーズ」の写真撮って、写真に対応する説明の文章を対比して述べる。教材文と同じ型で表現することで対比する説明文への理解を深めたい。調べることは児童が来年度から委員会に所属することから、「委員会の活動内容を調べて報告しよう」という課題を設定し、高学年の児童へのインタビューによる取材を活動に組み込む。取材を有効に行うために、5W1H(いつ・どこ・だれ・何・なぜ・どのように)を手

がかりとしながら、事前に尋ねたい項目を準備して取材を行うようにする。取材をし、リーフレットを作成することで来年度から活動する委員会への意識付けを図りたい。

この単元で身につけさせたい読みの力は、以下の通りである。

○ 写真と対応させた文章の内容を読み取る。

○ 文章表現の工夫を見つける。

4 指導の構想

○ 内容を正しく読み取らせる手だて

・すらすら読み → 内容理解をするためには、まず音読がすらすらとできることが基本である。そこで1段落ずつ、つかえずに読むテストを行うことを児童に知らせ、「すらすら読む」めあてをもたせ、毎日練習させる。教材文は全部で8段落あるが、音読テストの際は予告をせずに、その場で教師が段落指定を行い、読ませていく。音読テストで適切な評価をすることで意欲の向上にもつながると考える。

・国語辞典の活用 → 言葉の意味を理解することが正しい読み取りにつながる。内容理解につながる言葉を教師の方で意図的に取り上げ、意味調べをさせていく。教師の一方的なものだけにならないよう、児童が意欲的に調べるために、調べた数によって評価する基準を児童に知らせて行う。

・ワークシートの活用
→ 自分の考えを書いたり、まとめ直したりするための手段としてワークシートを使用する。ワークシートは読む時の視点を与えたもの、段落の関係が一目で分かり見やすくなったもの等を使い、内容を正しく読むための手助けとしたい。また、リーフレット作りの際にここで使用したワークシートを見ることでポイントを押さえられるものにする。

○ 表現させる手だて

・自分の考えをもつ時間の設定
→ 意見交流を行うための前段階として自分の考えをもつ時間や交流後に自分の考えを再構築して振り返る時間を確保する。上記のワークシートを使用していく。自分の考えを書く欄、友達や全体での意見交流後に自分の考えを振り返って書く欄などがあるワークシートとする。

・自分の考えを話し合わせる時間の設定
→ 目的に応じてペアやグループで交流する時間を設定する。交流することで互いの考えが同じか違うかをとらえさせ、全体で意見交流や検討をする際の自信をつける場としたい。

○ かかわり合わせる手だて

・同意や相違に目を向けられる話型の提示
→ 相手の意見をしっかりと聞き、意見交流を活発にするための手段として、「○○さんと～の所が同じで・・・」「○○さんとは～の所が違って・・・」の話型を使っていく。話型カードを掲示し、意識付けを図る。

○ 単元を貫く言語活動

・「委員会を紹介するリーフレット」を作る

→ 単元のゴールとして自分の興味のある委員会を紹介するリーフレット作りに取り組む。リーフレットは委員会の仕事内容を写真と文で紹介したものとする。教材文「アップとルーズで伝える」を学習することで、説明の工夫を学び、自分の目的に合った伝え方を取捨選択し、読み手に分かる文章を書けるように工夫させたい。

また、インタビューをすることで高学年との交流を図り、来年度の委員会の仕事への意欲付けを図っていききたい。

5 指導計画（全15時間 本時 4/15）

次	目 標	主 な 学 習 活 動
1	・リーフレットを作るためにどんなことを学習していけばよいか、学習の見通しをもつことができる。	①単元名、リード文、教材文から大体的内容をとらえる。「委員会を紹介するリーフレット」を作るために「説明のしかたを見つけよう」という課題を知る。
2	・写真と文章を対応させる説明のしかたを読み取ることができる。 ・段落相互の関係を理解することができる。 ・対比関係を理解することができる。	②1～3段落について写真と文章を対応させながら「説明のしかた」について読み取り、全体で検討する。1～3段落の関係を考える。 ③4～6段落について写真と文章を対応させながら「説明のしかた」について読み取り、全体で検討する。4～6段落の関係を考える。 ④4段落と5段落が対比的に説明されていることを表にまとめる。筆者がどうして対比的に説明しているかを考える。【本時】 ⑤7・8段落について文章から「説明のしかた」について考え、全体で検討する。7・8段落の役割を考える。 ⑥文章を読み返し、段落の内容を短くまとめ、文章全体の構成をつかむ。 ⑦上手な説明のしかたや説明の工夫について考え、まとめる。全校遠足の写真をもとに「アップ」と「ルーズ」の視点で文章を書く。
3	・調べたいことをもとに質問を考え、取材をすることができる。 ・取材したことを整理し、写真と対応させながら文章を書くことができる。	⑨⑩リーフレット作りの方法を知る。自分が紹介したい委員会を選び、質問する計画を立てる。 ⑪筆者の説明の工夫をもとに文章の書き方について確認する。リーフレットのレイアウトを考える。 ⑫⑬⑭集めた情報から載せる内容と写真を選び、写真と対応させた説明文を書く。 ⑮リーフレットを友達と読み合い、感想を交流する。

6 本時の計画

(1) ねらい

アップとルーズには「伝えられること」と「伝えられないこと」があることを表にまとめ、筆者がどうして対比説明を使ったかについて考えることができる。

(2) 本時の構想

① 対比が分かりやすい表を使う

前時でアップとルーズの写真を文章と対応させながら読み、「説明のしかた」について読み取っている。本時ではその読み取りをもとに全体でアップとルーズの「伝え

られること」と「伝えられないこと」を表にまとめ直す。表にすることで視覚的にも分かりやすくなるを考える。表は黒板に拡大したものを提示し、児童はワークシートに書いて整理する。整理した所で表をもとにして、児童に「対比」と教える。そして「どうして筆者は対比する文章を書いて説明したのか」と問うことで、児童自身が話したり書いたりする時にも使えるという「説明のしかた」であることに気付かせたい。

② ワークシートを活用する

ワークシートは「アップとルーズの伝えられることと伝えられないことをまとめ直す表」、「自分の考えを書く所」があるものとする。また、自分の考えと違う考えがある場合は、つけたしマークを書き、ワークシートに書き込ませる。

③ ペアで考えを交流→全体で検討し、対比説明のよさをまとめる

自分の考えを交流することで発表に対する抵抗を少しでも無くし、全体での交流につなげていきたい。交流する際は発表にとどまらないよう、「相手の意見に対して同じ所・違う所」を聞く視点を意識させて発言させていく。全体で検討する中で、対比して述べることは二つのものの違いがはっきりすることについて「説明のしかた」として気付かせていきたい。

(3) 本時の展開

学習活動(時間)	教師の働きかけと児童の反応	○手だて □評価
1 教材文を音読し、課題をつかむ。(15分)	T 1 4段落、5段落、6段落を先生と交代読みで音読しましょう。	○「。」で教師と児童が交代する音読を行い、テンポ良く読むようにする。 ○対比の拡大した表を黒板に提示する。 ○ワークシートを配布し、まとめを書かせる。 ○アップとルーズについての長所・短所を表に書き込んでいく。 ○児童がワークシートの表にまとめられているか、確認をする。 ○「対比」という言葉を
	C 全 (教師と交代読み)	
	T 2 前時ではアップとルーズにはそれぞれ伝えられることと伝えられないことがあるという勉強をしましたね。ワークシートを配布するので、表にまとめていきましょう。ではアップの伝えられることとは？	
	C 1 細かい部分の様子がよく分かる撮り方のこと	
	T 3 では、ルーズの伝えられることとは？	
	C 2 広いはんいの様子がよく分かる撮り方のこと。	
	T 4 伝えられないことはどの言葉に注目すると分かりましたか？	
	C 3 「しかし」や「でも」	
	T 5 では、アップの伝えられないこととは？	
	C 4 うっさされていない多くの部分のことは分からない。	
	T 6 では、ルーズの伝えられないこととは？	
	C 5 顔つきや視線、気持ちなど細かい部分は分からない。	
	T 7 (表をもとに) こういった関係	

	<p>を「対比」と言います。</p> <p>T 8 それでは、今日は次のことを学習していきます。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;"> <p>どうして筆者は対比を使って説明したのか。</p> </div> <p>ワークシートに自分の考えを書きましょう。</p>	<p>ワークシートに赤で書かせる。</p>
<p>2 自分の考えを書き、ペアで交流する。</p> <p>(10分)</p>	<p>C全 (ワークシートに考えを書く。)</p> <p>T 9 となり同士で自分の考えを話し合ってみましょう。</p> <p>C全 (ペアで交流する。)</p>	<p>○ワークシートに書き込む時間は5分とする。</p> <p>○机間巡視で子どもの考えを把握する。</p> <p>○考えを書けない児童には、個別に声を掛けて考えを書かせる。</p> <p>○ペアで交流の際は、自分と考えが同じなのか、違うのかを聞いて話そう、話型を示す。</p> <p>□自分の考えを書いている。</p> <p>(発表、ワークシート)</p>
<p>3 全体で意見交流をする。</p> <p>(15分)</p>	<p>T10 それではどうして筆者は対比的に説明したのか、自分の考えを発表してください。自分の考えとは違った場合は、ワークシートに付け足して書き込みましょう。</p> <p>C 6 アップだけでは分からないことも、ルーズがあることで分かるから。</p> <p>C 7 アップとルーズの両方あれば、詳しく分かるから。</p> <p>C 8 アップとルーズの両方があると見ている人の要求にも応えられるから。</p>	<p>○考えの違いはワークシートに付け足して書かせる。</p> <p>○考えは板書をしていく。</p> <p>○発表の際は、友達と考えが同じなのか、違うのかをしっかりと話そうように指示する。</p>
<p>4 自分の考えを整理する。</p> <p>(5分)</p>	<p>T11 友達の考えを聞いて、最終的には自分の考えはどうか、ワークシートに書きましょう。</p> <p>C全 (ワークシートに自分の考えを整理して書き込む。)</p>	<p>□対比関係の良さを見つけて自分の考えを書いている。</p> <p>(ワークシート)</p>

アップとルーズで伝える④

名前

☆前の時間で学習したことを表にまとめよう。

	
	
<p>伝えられること</p>	<p>伝えられないこと</p>

☆ どうして筆者は「伝えられること」と「伝えられないこと」を使って説明したのか。

○ 自分の考え

Four horizontal dashed lines for writing.

○ 自分の考えをまとめよう。

Four horizontal dashed lines for writing.

I 本時の子どもの姿と手だて

成果

- アップとルーズの「伝えられること」と「伝えられないこと」を表にまとめることで、視覚的に見ても分かりやすくなった。

課題

- 表に分かりやすくまとめたものの「対比」の押さえが不十分であった。
- 授業者の対比の捉え方が間違っていた。

1 「対比」を理解させることについて

(1) 「伝えられること」「伝えられないこと」を表にまとめたことについて

前時に「伝えられること」と「伝えられないこと」の説明の仕方を読み取っていたので、表にまとめていくための教師の問いかけには多くの子どもたちが反応していた。また、ワークシートを使って表に整理し直したことは視覚的にも分かりやすくなった。子どものワークシートと同じ拡大教材を使用したことも視覚的には良かった。

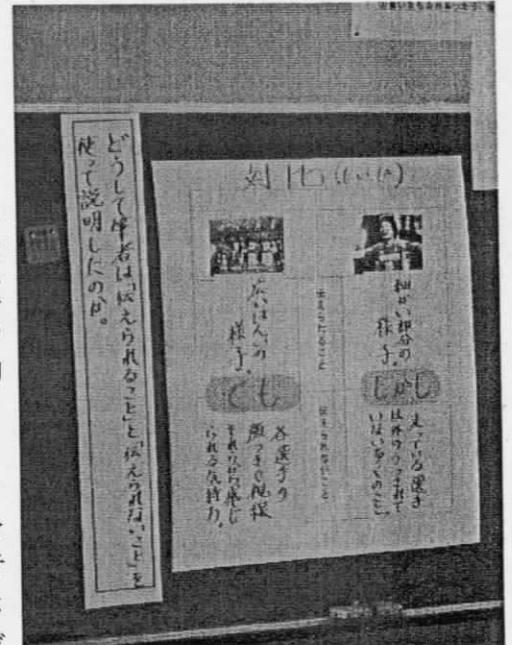
(2) 「対比」について

教科書では対比とは「2つのものを比べてちがいはっきりさせること」となっている。しかし、授業者が「伝えられることと伝えられないことをはっきりさせること」ととらえてしまっていた。表で言うと子どもたちは縦の関係が分かればよいと思っていたし、実際の授業でも子どもたちが理解したことを確認せずに進んでしまった。表の横の関係を見ながら2つのちがいはっきりさせ、子どもたちに例示させるなど対比の押さえを十分にする必要があった。

筆者がどうして対比説明を使ったかを考えさせたかったので「どうして筆者は伝えられることと伝えられないことを使って説明したのか」という発問を考えた。また、子どもの考えが出なくなるかもしれないという不安から、補助発問として「みんなは作文を書く時は悪いことを書く？」と問いを投げかけた。

- C 1 ; 筆者はどうしても入れたい。
- C 2 ; 筆者は詳しくするために伝えられることと伝えられないことを入れた。
まちがったことは伝えたくないと思ったから。
- C 3 ; たくさんいろんなことを読んでもらう人に伝えたい。
- C 4 ; アップで撮るとルーズの悪い所が解決できるし、ルーズで撮るとアップの悪い所が解決される。

子どもたちなりに一生懸命に考えていたが、対比を十分に理解せず、この発問と補助発問では思考しにくかった。また発表したことを教師の意図する言葉に置き換えて板書をしていたので、子どもの発言そのままを取り上げ、子どもたちの考えの中から答えを見つけていく授業を構成しなければならないと感じた。



2 伝え合いの工夫について

(1) 自分の考えをもつことについて

自分の考えをもつために、3つのことを指導してきた。1つ目は、教科書の根拠となる文にサイドラインを引くことである。サイドラインを引くことで教科書の文に意識が行き、考える時に立ち返ったり、理由を考えやすくなったりしていた。

2つ目は、ワークシートに自分が考えたことを詳しく書かせるようにしたことである。ワークシートを用意することで、全員が同じ所に意識が行き、今すべきことが分かって良かった。また、考えを書くことで、発表をしようとする意識が働いていた。

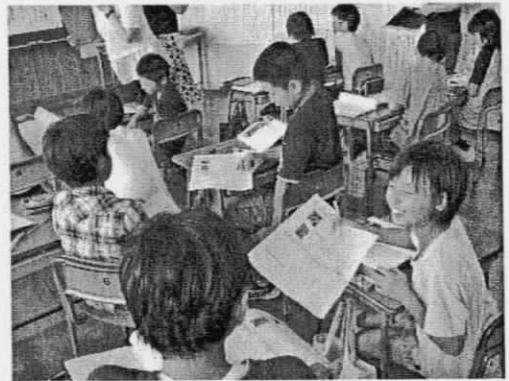
3つ目は、友達の考えを聞いて「なるほど」「自分の考えよりいいな」と思ったことをワークシートに付け足しをさせた。そして授業の最後に話し合いをもとにして、自分の考えをまとめ直すことをしてきた。この学習をすることで、友達の考えと同じなのか違うのかに耳を傾けて聞くようになってきた。

(2) かかり合わせることについて

自分の考えに自信をもってもらいたいという思いから、ペアで発表する学習を意図的に取り入れた。ペアで発表し合うことで安心感を持つことができるのか、全体で検討をする際、挙手をしての発言が多かった。

「〇〇さんと同じで・・・」「〇〇さんと違って・・・」という話型を提示したことで、友達の発言をよく聞いていたように思う。また、教師が板書をする時に子どものネームプレートを貼っていったことも話型を使って発表する際の手助けとなっていた。

課題としては、考えの発表にとどまっていることである。自分の考えをもとにして相手の意見を聞き、意見をするという意見交流までできるよう、これからも話す・聞くスキルを継続指導していく。



II 単元を通して

(1) 「委員会紹介リーフレット」作りのゴールを設定したことについて

子どもたちは来年度から委員会に所属することから、委員会活動の様子を調べることに意欲を示した。また自分が紹介したい委員会の活動があるとデジタルカメラを持ってその場所に行き、アップとルーズを使い分けて撮ることができていた。しかし写真から説明を書くという時に、表現する力に個人差があり時間が掛かってしまった。教師が書き方の見本を見せる、文章の書き方について、いくつか提示し選ばせるなど、個に応じた指導が必要であった。相手意識をもって書くことはこれからも継続指導していきたい。

III 実践を通して大切にしたいこと

自分の考えを表現し、相手に伝えることは全員ができるようにしていきたい。少人数のクラスだからこそ、何でも言い合えて分かり合う・教え合う子どもを育てていきたい。そのためにも子どもたちが意欲をもって取り組めるような発問、自信をもって発言するための発表の仕方の工夫、学習したことが明確に分かるような足跡を残していくことをこれからも実践していきたい。

第5学年1組 国語科学習指導案

平成25年1月9日第4校時

授業者 茂呂ゆかり

1 単元名 作者の伝えたいことを読み取ろう

教材名『月の輪グマ』『大造じいさんとガン』

2 単元の目標と評価規準

(1) 目標

- ◎ 『月の輪グマ』と『大造じいさんとガン』の二つの作品を通して、作者の伝えたいことをまとめることができる。

(2) 評価規準

〈国語への関心・意欲・態度〉

- 文章から読み取ったこと、自分なりに感じたことや考えたことを書こうとしている。
(ワークシート)
- 椋鳩十の作品を進んで読もうとしている。(読書の様子)

〈読む能力〉

- 物語のあらすじを場面ごとに簡潔にまとめる。(話し合いの様子、ワークシート)
- 登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をもとに、中心人物「わたし」の気持ちの変容をとらえる。(話し合いの様子、ワークシート)
- 二つの作品『月の輪グマ』と『大造じいさんとガン』の母グマと残雪、大造じいさんと「わたし」を比べて読んで、共通点を見つける。(話し合いの様子、ワークシート)

〈言語についての知識・理解・技能〉

- 文脈に即して、言葉の意味を理解する。
(発言、教材文『月の輪グマ』への書き込み)

3 単元について

椋鳩十の動物文学は、動物の生態を、生息する自然の中できわめて正確に描き、動物と人間とが自然の中で共存する大切さを訴えている。また、動物の生き方を通して、「精いっぱい生きるための努力」を親しみや愛しさや、悲しみをもって受け止めてもらいたいという作者の願いが込められている。

『月の輪グマ』は、滝つぼにとびこむ母グマの行動が中心人物の「わたし」や荒木の気持ちを変容させる物語である。「子グマを生けどりたい」と思っていた二人は、母グマの子どもを命がけで守ろうとする強い気持ち、勇気、愛情にすっかり心を打たれて「母グマ、子グマに、いつまでも元気でいてほしい」と心に変化する。これは、十月に学習した『大造じいさんとガン』と共通点が多く、児童にも比べやすい教材であると考えられる。

『大造じいさんとガン』と比べながら読むことで、児童がクライマックス場面の読みを深めたり、作者の伝えたいことをまとめる表現力を身に付けたりすることができると思われる。

4 指導の構想

(1) 単元を貫く言語活動について

大きなステップ・アップは難しく、同じことを繰り返し学習することによって力を付けてきた児童である。本単元でも『大造じいさんとガン』の学習を振り返らせ、比べさせながら読み進めさせることで物語を読む力を身に付けさせたい。

導入で、十月に学習した『大造じいさんとガン』と同じ作者の椋鳩十の作品であることを伝え、「似ているところや同じところをさがしながら読もう。」というめあてをもたせる。『大造じいさんとガン』の本文に戻ったり、ノートや資料などの学習記録を活用したりしながら、『月の輪グマ』の中心人物である「わたし」の行動や、気持ちの変容を読み取らせていく。

(2) 内容を正しく読み取らせるために

① あらすじを場面ごとに一文でまとめさせる。

あらすじを一文でまとめることは初めてである。あらすじに必要な大切な文を見つけさせ、穴埋め形式のワークシートを用いることによって、全員であらすじを要約する。「わたし」の気持ちの変容を押えるために、あらすじの主語が「わたし」になることを確認する。

② クライマックスの場面の「わたし」の気持ちを焦点化して検討する。

子グマをなんとしても生けどりたいと考えていた「わたし」の気持ちが、母グマの子どもを命がけで守ろうとする強い気持ち、勇気、愛情に心を打たれて、母グマ、子グマにいつまでも元気でいてほしいという願いに変容する点に焦点をあてる。「滝つぼに飛びこんだ母グマが浮かびあがり動かなくなったのを見た『わたし』は、どんな気持ちだったのか」という問いをすることで、根拠となる文や言葉から気持ちを検討し、児童の考えを広げ、深めたい。

(3) 表現させるために

① 書く型を示す。

どのように書き始めたらよいのか、どのような内容を書けばよいのか例を示すことで書くことへの抵抗を小さくし、叙述に着目させる。

② 考えを書かせてから発言させる。

自分の考えを書くことによって、挙手をして発言する児童が多くなる。より多くの児童が発言できるように、同じ考え、似ている考えであっても発言をうながす。その中で、キーワードになる言葉をひろって、考えを広げていきたい。

③ グループで自分の考えを話す場を設定する。

学級全体では発言できない児童も、グループの中で話すことはできる。そこで、単元の前半や最後の感想交流ではグループでの話し合いの活動を設定する。グループの話し合いが進められるように、グループ編成をする際に話し合いの中核になる児童がどのグループにもいるように配慮する。話し合いが進められないグループは、個別に支援していく。

④ 振り返りで「書く」時間を設定する。

友達の考えを聞いて「なるほど」「いいなあ」と思ったことを付け足したり、自分の考

えが変わったりしたことを、マークを付けて書き加えさせる。児童に友達の考えのよさを意識させるとともに、一人一人の読みの評価につなげていく。

5 指導計画（全5時間 本時4/5）

時	目標	主な学習活動
1	<ul style="list-style-type: none"> 『月の輪グマ』の好きな場面や感想を書くことができる。 『大造じいさんとガン』と比べながら読むという学習の見通しをもつことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 『月の輪グマ』の全文を読み、好きな場面や感想、似ているところを書く。 『大造じいさんとガン』と比べながら読むという学習課題を知る。
2	<ul style="list-style-type: none"> 『月の輪グマ』のあらすじをまとめることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> あらすじにつながる文や大切な言葉を見つけ、ワークシートの穴埋めを書く。
3	<ul style="list-style-type: none"> 母グマの子グマを救うための行動が「わたし」の気持ちを変容させたことが分かる。 	<ul style="list-style-type: none"> 『大造じいさんとガン』の大造じいさんの残雪に対する気持ちの変容を確認する。 『月の輪グマ』のクライマックスの場面の検討をする。
4 本時	<ul style="list-style-type: none"> 『大造じいさんとガン』との共通点から、椋鳩十が伝えたいことを考えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 二つの作品の共通点を考え、話し合う。 共通点から、椋鳩十が伝えたいことを考える。
5	<ul style="list-style-type: none"> 椋鳩十の他の作品を読み、感想を交流することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 朝学習や家庭学習で他の椋鳩十の作品を読み、感想を書く。 読んだ作品の感想を交流する。感想文の型や書く内容（①2つの作品との共通点②どこを読んでそう思ったか③読んだ作品の感想）を示す。

6 本時の計画

(1) ねらい

「月の輪グマ」「大造じいさんとガン」の二つの作品の共通点から、椋鳩十の伝えたいことを考えることができる。

(2) 本時の構想

① 二つの作品のあらすじと中心人物の心の動きをまとめたものを提示する。

二つの作品を比べやすいように、表にまとめたものを提示する。視覚的にもとらえやすいように、中心人物の変容した気持ちを表した吹き出しの色を変える。

② 二つの作品の共通点のみを問うことで、椋鳩十の伝えたいことを焦点化する。

違いにまで目を向けると、考えが広がりすぎたり時間が足りなくなったりすることが考えられるので、共通点のみを問う。「わたし」と大造じいさんを人間、母グマ（クマの親

子)と残雪を動物という言葉に置き換えさせて、椋鳩十の伝えたいことをまとめさせていく。

共通点を話し合う場で、児童の考えの中で人と動物という言葉が出てくることが予想される。具体的に人と動物は何を指すのかを問い返すことによって、椋鳩十の伝えたいことにつなげたい。

(3) 本時の展開

学習活動 (時間)	教師の働き掛けと児童の反応	○手だて □評価・その他
1 前時の学習を想起する。 2 本時の学習課題を確認する。 (5分)	・前時の学習を振り返りながら、『月の輪グマ』のあらすじを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 【課題】 二つの作品の共通点から、椋鳩十の伝えたいことを考えよう。 </div>	○資料1を提示する。 ○課題文を提示する。
3 二つの作品の共通点を考え、まとめる。(10分) 4 共通点を話し合う。(10分)	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 【発問1】 二つの作品の共通点を考えましょう。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 【指示1】 資料1をもとに、ワークシートに書きましょう。 (C ワークシートに共通点を書く。) </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 【指示2】 共通点を発表してください。 </div> C1 残雪も母グマも、どちらも堂々としている。 C2 どちらも、人と動物が出てくる話だ。 C3 動物も人間と同じように一生懸命に生きている C4 大造じいさんも「わたし」も、残雪と母グマの勇気ある行動によって、気持ちが変わった。 C5 残雪も母グマも、人間のような気持ちをもっている。動物も人間の気持ちを変えられる力がある。	○ワークシートを配付する。書き方が分からない児童のために、書く型を示す。 ○机間指導をしながら、児童の考えを見取る。 □資料1や叙述を基に共通点を書いている。 ○話し合いが深まっていくように、整理して板書する。また、付け足しがしやすくなるような考えから指名していく。 ○人(人間)や動物は具体的に誰を指すのか問い返す。 ○動物の行動によって、中心人物の気持ちが変わったことを確認する。 □資料1や叙述を基に共通点を書いている。

<p>5 伝えなかったことを考え、まとめる。(7分)</p>	<p>【発問2】 椋鳩十の伝えたいことを考えましょう。</p>	<p>○ワークシートを配付する。</p>
<p>6 伝えたいことを発表する。(7分)</p>	<p>【指示3】 人間と動物という言葉を使って、伝えたいことを書きましょう。 (C ワークシートに伝えたいことを書く。)</p>	<p>○発表した考えを、どれも認めていく。</p>
	<p>【指示4】 発表してください。</p> <p>C6 人間と動物とが仲良く生きてほしい。 C7 動物にも人間と同じ心があるから、動物も大切にしてほしい。 C8 動物にも人間の気持ちを変えることができる。動物も人間と同じだ。 C9 動物も人間と同じように一生懸命に生きている。</p>	<p>□作者の伝えたいことをワークシートに書くことができる。</p>
<p>7 振り返りを行う。(6分)</p>	<p>【指示4】 : 友達の考えを聞いて、付け足しや感想などを書きましょう。 (C ワークシートに付け足しや感想を書く。)</p>	<p>○板書したものを写してもよいことを確認する。 □友達の考えを聞いて、付け足しや考えが変わったこと、感想を書き加えることができる。</p>

- 《参考文献》
- 文溪堂 二瓶弘行の「物語授業作り一日講座」(著者:二瓶弘行)
 - Web配信 5年国語発展問題 読む②
 - 朝日小学生新聞 斉藤孝のゼッタイこれだけ!名作教室「月の輪グマ」

あらすじをまとめよう

名前

クマに対する

場面	1	2	3	4	5
「時」や「場」	遠山川の上流深い谷の中				
あらすじ	「わたし」と荒木は、クマの大きな足あととの足あとを見つける。	「わたし」は、()のクマの親子を生まれてはじめて見る。	()といっしょにいる子グマを生けどることが()であることを「わたし」は理解する。	子グマが一ぴきでいるところを生けどりにしようとする「わたし」と荒木だったが、子グマを助けようと()めがけてとびこみ動かなくなった母グマを見て、ひと声も発することができなかった。	いつまでも母グマを見まもっていた「わたし」は、母グマが動きはじめたのを見て、()がぼろぼろこぼれそうになる。
わたしの気持ち					

二つの作品の共通点を見つけよう。

『大造じいさんとガン』

- 1 大造じいさんは、残雪をつかまえようと、ウナギリばかりを仕かけたが、失敗してしまう。
- 2 大造じいさんは、タニシをまいて残雪をつかまえようとしたが、またしても失敗してしまう。
- 3 おとりのガンを使って残雪をつかまえようとした大造じいさんだが、そのガンを救うためにハヤブサと戦っている残雪を見て、じゅうをおろした。
- 4 おりの中で一冬をこし、回復した残雪を、大造じいさんは空に帰してやる。

『月の輪グマ』

- 1 「わたし」と荒木は、クマの大きな足あとと子グマの足あとを発見する。
- 2 「わたし」は野性の親子を生まれてはじめて見る。
- 3 母グマといっしょにいる子グマを生けどることは、命がけであることを、「わたし」は理解する。
- 4 子グマが一びきでいるところを生けどりにしようとする「わたし」と荒木だったが、子グマを助けようと滝つぼめがけてとびこみ動かなくなった母グマを見て、ひと声も発することができなかった。
- 5 いつまでも母グマを見まもっていた「わたし」は、母グマが動きはじめたのを見て、なみだがぼろぼろとこぼれそうになる。

大造じいさんの気持ち

いまましい 残雪。

またしても、残雪のためにしてやられた。

残雪めに、ひとあわふかせてやるぞ。

ただの鳥に対してしているような気がしない。

ガンの英雄よ。また、堂々と戦おう。

「わたし」の気持ち

子グマを生けどってみたい。

ますます、子グマを生けどりたくなつた。

子グマを生けどるのは、命がけでも、生けどりたい。

子グマを手に入れたも同然だ。

子グマを生けどろうとしなければよかった。

母グマが死んで、子グマだけになつてかわいそう。

母グマと子グマに、じょうぶでいてほしい。

第5学年1組 「作者の伝えたいことを読み取ろう」授業考察

授業者 茂呂 ゆかり

I 本時の子どもの姿と手だてについて

成果

- 二つの作品のあらすじと中心人物の心の動きをまとめた表を提示することは、作品を比べることに有効であった。
- 二つの作品の共通点を問い、中心人物の心の動きに焦点化した話し合いをすることで、クライマックスの場面の動物の行動に着目することができた。

課題

- 成果にあげた二つの作品の表を提示することで、考えがせばまり、文章に戻って叙述に着目した共通点をあげるのが難しかった。

1 内容を正しく読み取らせるために

- (1) 二つの作品のあらすじと中心人物の心の動きをまとめたものを提示して比べさせる。

この手だてによって、全員が二つの作品を比べて共通点を考え、書くことができた。記述は以下の通りである。

- ア 動物の行動によって、中心人物（人間）の気持ちが変わったことを書いていた……………2人
- イ 中心人物（人間）の気持ちが変わったことを書いていた……………12人
- ウ 動物が仲間を助けようとした。人間が動物をつかまえようとしていたことを書いていた…2人
- エ 人間が動物をつかまえようとしていたことのみを書いていた……………5人
- オ 動物が出てくることを書いていた……………2人

表のみを見て考えたため、児童の考えがせばまっていた。人間の行動や気持ちとともに、動物の行動に目を向ける児童が少なかった。また、本文の叙述をもとに考える児童がいなかった。例えば、共通点と思われる文を書かせるなどの働き掛けが必要であった。

- (2) 中心人物の心の動きを焦点化して話し合いをする。

指導案の展開では、中心人物の心の動きの焦点化については述べていなかった。

しかし、児童の記述では、「動物の行動が中心人物の気持ちを変容させた」と述べている児童が少なかった。そこで、話し合いの中で「どんなふうに気持ちが変わったか。」「何が気持ちを変えたのか。」と問い返すことで、「中心人物の気持ちが動物の仲間や子どもを救う命がけの行動によって変わったこと」に広め、深めたいと考えた

T1:つかまえようとして気持ちが変わったことについて発表してください。

C1:大造じいさんとガンはひきょうな手から堂々と戦おうに変わった。

C2:ケガをしたり死にそうになったりして人の気持ちが変わった。

C3:両方とも後悔する。

C4:初めはつかまえようとするけれど、終わりは気持ちが変わった。

T2:どんなふうに気持ちが変わったの？

C4:大造じいさんとガンは、ただの鳥に対してのような気がしなくなった。月の輪グマは生け捕らなければよかったと後悔した。

C5:つかまえたいから、つかまえようとしなければよかったに変わった。

C6:動物が仲間を救い、それを見て気持ちが変わった。

T3:何が気持ちを変えたの？

C6:動物が命がけで仲間を救おうとした行動。

T4:残雪の命がけの行動とは？

C7:ハヤブサと戦ったとこと。

C8:第二の敵の大造じいさんが表れた時の堂々としていたこと。

T5:月の輪グマの行動とは？

C9:母グマが滝つぼめがけて飛びこんだこと。

C10:子グマを助けようとしたこと。

他の児童の考えを聞くことにより、中心人物の気持ちの変容の共通点に気が付いた児童が増えた。しかし、児童自らの「つけたし」や「質問」「違う」などの考えを広げ深めた発言がなかった。

また、T3の発問の答えとして、「仲間を救おうとした命

がけの行動」や、「その行動に対する中心人物の気持ち」が表れている叙述に戻る必要がある。①と同様に、叙述をもとに考えさせる働き掛けが必要であった。

2 表現させるために

(1) 椋鳩十の伝えたいことをまとめさせる

作品の共通点を中心人物の心の動きを焦点化して話し合わせた結果、「人間の気持ちが動物の命がけの行動で変わること」が分かり、さらに考え「動物も人間と同じ気持ちをもっている」「動物と人間の共存」と述べている児童が11名いた。これは、次の椋鳩十の作品を読むという読書を広げる活動につながった。

II 単元を通して

『大造じいさんとガン』を振り返りながら『月の輪グマ』を学習することは、物語の読み方を確認するとともに、『大造じいさんとガン』の読みを深めることにつながった。また、二つの作品から、椋鳩十の他の作品を読み進める時に、中心人物の気持ちの変容やその場面を意識することができた児童が多かった。しかし、「確かな読みの力」をつけるためには、本時だけでなく単元を通して、文章の叙述を根拠にして読む活動が足りなかった。そのため、椋鳩十の伝えたいことを考える活動は、読書を広げる活動にとどまった。

III 実践を通して大切にしたいこと

書く型を示して考えを書かせることは、児童の自信につながり、挙手して発言することが増えた。しかし、書いたものにとどまり、友達の考えを聞いてそれに対して「つけたし」「質問」「反対」などの児童自らの伝え合いがなかった。

児童に「伝えたい」「知りたい」という意欲をもたせるような課題とともに、日常の授業の中で、伝え合うということを大切にしていきたい。伝える相手を教師でなく、学級の友達であることをより強く意識させ、指導していきたい。

椋鳩十の作品を読み進めながら、
『大造じいさんとガン』や『月の輪グマ』の共通点を探してみました。

『金色の足あと』

この作品は中心人物の正太郎が親ギツネの行動により、
気持ちが又変わります。

初めは、「このやろう！」などと言って、さう、こいたけじやじうが、子をおもう
心から、ギツネをおかして、人家のちか下に巣をつけた。親ギツネの行
動から、正太郎は心をつたれて、気持ちが変わります。

わたしは、この作品を読んで、五の場面が、気に入りました。
気持ちが変った。正太郎が、二かいした親を止めるところに感動
しました。椋鳩十の語は、みんな動物が助け居るので、これか伝え
たいことなのかな、と思いました。

第6学年1組 国語科学習指導案

平成24年11月13日(火) 第5校時
授業者 大関一教

- 1 単元名 作品の世界を深く味わい、読みを広げよう
教材名「やまなし」 資料「イーハトーヴの夢」

2 単元の目標と評価規準

(1) 目標

- ◎場面についての描写をとらえ、作品の中で使われている表現を味わいながら、優れた叙述について自分の考えをまとめることができる。
- ◎複数の本や文章を比べて読み、作者の生き方や考え方について知ることができる。
- 作品の中で使われている表現を味わい、語感や言葉の使い方に関心をもつことができる。

(2) 評価規準

〈国語への関心・意欲・態度〉

- ・ 物語の情景や言葉の使い方に興味をもったり、作者の考え方や生き方を知ったりしようとしている。(発表の様子・ノート)

〈読む能力〉

- ・ 場面の様子をとらえて、優れた叙述に気がついている。(発表の様子・ノート)
- ・ 二つの場面を比べて読むことで、作品の特徴や作者の思いをとらえている。(発表の様子・ノート)
- ・ 複数の本や文章を比べて読んで、作者のものの見方や考え方について考えている。(紹介カード)
- ・ 本を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを深めている。(紹介カード)

〈書く能力〉

- ・ 宮沢賢治の他の作品を読み、紹介カードにまとめている。(紹介カード)

〈言語についての知識・理解・技能〉

- ・ 物語の構成について意識をもっている。(発表の様子・ノート)
- ・ 物語を読んで、語感や言葉の使い方に対する感覚について関心をもっている。(発表の様子・ノート)
- ・ 比喩などの表現上の特色について意識している。(発表の様子・ノート)

3 単元について

「やまなし」は、独特の色彩語や比喩、擬声語・擬態語などの表現が多く使われており、色彩的で幻想的な情景描写と対比的な構成が特徴的な作品であり、宮沢賢治の深い思想を含んでいる作品である。また、文中に出てくる「クラムボン」や「イサド」とは何かなど、疑問や興味をもちながら読み進めることができる作品である。本単元では、これらの表現に目を向けさせて、「やまなし」の世界を読み味わわせ、内容を正しく読み取らせていきたい。

また、資料「イーハトーヴの夢」と関連させて読むことで、宮沢賢治の生き方や考え方に触れ、作品世界と宮沢賢治の生き方・考え方を重ね、自分の考えを深めさせたいと考える。単元の終末には、宮沢賢治の他の作品を読み、主題をとらえたり情景描写を読み取ったりして、紹介カードにまとめて紹介する活動につなげていきたい。

この単元で身につけさせたい読みの力は、以下の通りである。

- 情景描写や文章表現を対比させながら内容を読み取る。
- 比喩、擬声語・擬態語などの表現が分かる。

4 指導の構想

○ 単元を貫く言語活動

- ・ 単元の導入時に、宮沢賢治の作品や知っていることを挙げさせ、作者について興味・関心をもたせる。また、宮沢賢治の作品を教室に置き、朝読書や読書の時間を活用して宮沢賢治の作品にたくさん触れることができるように並行読書を行っていく。そして単元の終末に、並行読書を行ってきた中の作品やその他の作品を読み、情景描写や主題を読み取ったりして、紹介カード（宮沢賢治の考え方が表れている部分）にまとめて友達に紹介する活動を行う。同じ作者の他の作品を読むことで、作者の生き方や考え方について理解し、読みを広げることにつなげさせたい。

○ 内容を正しく読み取らせる手だて

- ・ 文章表現に慣れ親しませるために、教材文を繰り返し音読させる。（一斉読み、マル読み）
- ・ やまなしの「五月」と「十二月」の場面を、「～が～によって、～する・になる話」という文型を使って一文で表現させ、話の内容をとらえさせる。
- ・ 「五月」と「十二月」のイメージがもちやすいように、文中のキーワード（色・光・生き物など）を使い、一文で表現した場面を絵に表す。そうすることで、叙述に即して読み進め、物語の情景を想像することにつながると考える。また、その絵とそれぞれの場面の様子の一文をもとに二つの場面对比させ、それぞれの場面に表現されたテーマを考え、作品の主題へとせまらせていきたい。

○ 表現させる手だて

- ・ 登場人物の心情や様子、場面の様子が分かるところ、心に強く感じたところなどにサイドラインを引かせ、自分の考えを話したり友達の考えを聞いたりするときのポイントとさせる。
- ・ 並行読書を行ってきた作品の中から、自分が一番心に残った作品についての紹介カードを書かせる。その際、宮沢賢治の生き方や考え方が表れている部分を紹介させる。

○ かかわり合わせる手だて

- ・ 一文で表現した文や絵で表現した様子をペアやグループで発表し合わせ、自分の考えと友達の考えを比較させる。その際、「ここにこう書いてあるから、このようにした。」など、文中の言葉や自分の考えを交えながら発表させる。また、発表し合うときの視点を与え、何について発表すればよいかを明確にさせる。
- ・ ペアやグループで発表し合ったものを全体の場で確認や検討を行い、場面の様子や作者の考えを共有し合っていく。

5 指導計画（全12時間 本時9/12時間）

次	目 標	主 な 学 習 活 動
1	<ul style="list-style-type: none"> ・「作者の生き方や考え方と重ねて、作品を読もう」という学習の目標、学習の見通しをもつことができる。 ・「イーハトーヴの夢」を読み、宮沢賢治の生涯について知ることができる。 ・宮沢賢治の生き方や考え方について、自分の考えをまとめることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ①学習のめあて、学習上のポイントを読み、学習の大体の内容を理解する。全文を読んで、作品の大まかな内容をとらえ、初発の感想を書く。 ②「イーハトーヴの夢」を読み、宮沢賢治の生きていた時代の状況、思想や行動、考え方などを読み取り、年表にまとめる。 ③「イーハトーヴの夢」に書かれている宮沢賢治の生き方や考え方についてノートに書く。並行読書を行い、学習の最後で宮沢賢治作品を紹介し合う活動を知ることを知る。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・「やまなし」の文章構成を理解する。 ・「五月」と「十二月」の場面を一文で表すことができる。 ・「五月」と「十二月」の谷川の様子を絵を用いて、読み取ることができる。 ・「五月」と「十二月」の谷川の様子を対比させながらまとめることができる。 ・「五月」と「十二月」を対比させて、その違いについて考えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ④全文を読み、登場人物や場面の様子について読み取る。 ⑤「五月」と「十二月」の場面を、「～が～によって、～する・になる話」という文型を使って一文で表す。 ⑥「五月」の谷川の情景や出来事を想像しながら読み、絵にまとめる。登場するものや音、様子を表す表現を押さえながら読んでいく。 ⑦「十二月」の谷川の情景や出来事を想像しながら読み、絵にまとめる。情景描写やかに親子の気持ち表れている表現を押さえながら読んでいく。 ⑧「五月」と「十二月」の様子を対比させながら、ノートにまとめる。 ⑨「五月」と「十二月」を対比させて読み、その違いについて考え、どのような世界かを想像する。 【本時】 ⑩宮沢賢治の生き方や考え方について話し合い、なぜ「やまなし」という題名をつけたのかについて、考えをまとめる。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・宮沢賢治の他の作品を読み、紹介カードにまとめることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ⑪⑫宮沢賢治の他の作品を「やまなし」と比べて読み、作者の考えが表れている部分や主題、感じたことを紹介カードにまとめる。

6 本時の計画

(1) ねらい

「五月」と「十二月」を対比させて読み、その違いについて考えを交流することを通して、「五月」と「十二月」がどんな世界かを想像することができる。

(2) 本時の構想

①対比ができるように前時でまとめた五月と十二月の様子の内容を活用させる。

前時までまとめた「五月」と「十二月」の絵（個人のもの・掲示用）や対比させながらまとめたものを参考にさせて、それぞれの月がどんな世界か、自分の考えをまとめさせる。対比さ

せて考えることで、どんな世界かを想像することができると思う。その際、対比の観点（光・色・生き物・生き物の印象、かのにの会話）に着目させ、それらを理由として付け加えながら、「五月は、〇〇と書かれているから～な世界だと思う。」「十二月は、〇〇な世界だと思う。理由は、～だから。」などと、自分の考えをノートに書かせていく。

②グループで考えを交流させ、全体の場でどんな世界かを検討させる。

自分の考えをもつ時間を確保し、グループで意見を交流させる。グループの話し合いでは、一人一人が自分の考えをしっかりと話すことと、その考えに対してどう思ったかを言わせ、お互いに考えを交流させる場としたい。その後、グループで発表した様々な考えを全体で出し合いながら、作者の言いたいことや主題についてせまらせていきたい。

(3) 本時の展開

学習活動（時間）	教師の働きかけと児童の反応	○手だて □評価
1 「五月」と「十二月」の様子を図とワークシートで確認する。 (5分)	T1 昨日までは、「五月」と「十二月」の様子を絵にまとめたり、言葉でまとめたりしてきました。 C 学習のめあてを書く。 「五月」と「十二月」の様子を比べて、それぞれの月がどんな世界かを考えよう。	○絵やワークシートで確認させる ○課題を板書する。 ○学習のめあてを書かせる。
2 「五月」と「十二月」を比べながら、どんな世界かノートにまとめ、グループで発表する。(15分)	T2 「五月」と「十二月」がどんな世界かをノートにまとめましょう。その時、光・色・生き物・生き物の印象、かのにの会話などから、どうしてそう考えたのか理由を付け加えて考えを書きましょう。 C 五月は、クラムボンが笑っていたり、明るく日光が差したりしてくるから、明るい世界だと思う。 C 五月は、かのにの会話で「死んだよ、殺されたよ」という言葉があるから、怖い世界な感じ。十二月は、「あわが大きいよ、ぼくの方が大きいよ」とかのにの親子の会話が楽しい感じがするので、楽しい世界だと思う。 C 五月は、かわせみが魚を捕まえていくから、残酷な世界。十二月は、やまなしが落ちてきて、それが流れていくから、のどかだったり平和だったりする感じ。 T3 グループで自分の考えを発表し合いました。その際、友達の考えを聞いてどう思ったか、言ってあげましょう。 C全 (グループで発表し合う)	○前時までにまとめた五月と十二月の絵、五月と十二月を対比させた表を提示しておく。 ○光・色・生き物・生き物の印象、かのにの会話を理由とさせ、自分の考えをノートにまとめさせる。 ○書けない児童には、話型を示す。(五月は〇〇と書いてあるから、～な世界と思う。) ○ノートにまとめられているか確認する。 □どんな世界か、理由をもとに自分の考えを書いている。 ○友達の考えに対してどう思ったかを言わせ、考えを交流させる。

<p>3 全体で意見交流する。(20分)</p>	<p>T4 全体で「五月」と「十二月」がどんな世界か話し合ってください。</p> <p>C 五月は、暗い世界だと思う。理由は、「死や殺された」という言葉があるから。</p> <p>C 五月は、食べる・食べられる世界だと思う。理由は、かわせみが魚をつかまえていってしまうから。</p> <p>C 十二月は、あたたかな世界だと思う。理由は、「やまなしのにおいがいいにおい」とあったり、かきの親子の会話が楽しそうだったりするから。</p>	<p>○対比されている言葉や光・色・生き物・生き物の印象,かきの会話に着目させて,考えを述べさせる。</p> <p>○どの部分からそう思ったのか理由を問うていく。</p> <p>○考えを板書していく。</p> <p>○五月は「暗い・怖い」,十二月は「明るい・楽しい」というイメージの方向につなげていく。</p> <p>□理由を付け加えて自分の考えを述べている。</p>
<p>4 学習の振り返りをする。(5分)</p>	<p>T5 友達の考えを聞いて,自分の考えが変わったり,考えを付け加えたりしたいことを赤ペンで書きましょう。</p> <p>C 初めは,五月は明るい世界と思っていたけど,魚が捕まえられたり,死んだりという言葉があったりするから,怖い世界と思った,</p>	<p>○学習を振り返る。</p> <p>○赤ペンで考えの付け加えをさせる。</p>

二月」を対比させてまとめた表を十分に活用することができず、対比を基に自分の考えや理由を書かせることができなかった。対比させた表を活用させて考えや理由を述べさせるためにも、表の活用を常に意識させていくことが必要であった。

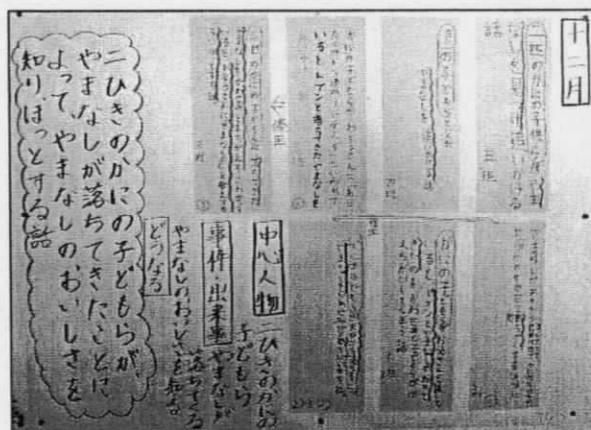
(2) グループで発表し合うことについて

一文で表現した文や絵で表現した様子をペアやグループで発表し合わせ、自分の考えと友達の考えを比較させるようにした。その際、「5月は魚が食べられたり、死んだりという言葉がたくさん出てくるから、残酷な世界と思う。」など、文中の言葉を使い、叙述を基にして話す子どもの姿が見られた。また、発表し合うときの視点を与え、何について発表すればよいかを明確にさせたことで、自分の考えを進んで話そうとする姿が見られた。しかし、発表するだけにとどまり、グループで出し合った考えを深め合うには、考えを深めるための手だてや工夫が必要であった。友達の考えを聞いて、それに対して自分はどうか考えるか、付け足しや疑問点はないかなど、話をつなげていくための指導が課題である。

II 単元を通して

1 内容を正しく読み取らせるために2つの場面を一文で表すことについて

やまなしの「五月」と「十二月」の場面を、「～が～によって、～する・になる話」という文型を使って一文で表現させ、話の内容をとらえさせるようにした。個々で書いたものをグループで話し合わせ、グループで1つにまとめさせた。その後、全体で話し合い、十二月では「二ひきのかにの子どもらが、やまなしが落ちてきたことによって、やまなしのおいしさを知り、ほっとする話」とまとめた。その際、①中心人物、②事件・出来事、③どうなったかという部分をしっかりとおさえたことで、内容を正しく読み取らせることにつながったと考える。



2 並行読書と「作品紹介カード」について

宮沢賢治の作品を教室に置き、朝読書や読書の時間を活用して宮沢賢治の作品にたくさん触れることができるように並行読書を行った。そして単元の終末に、並行読書を行ってきた中の作品やその他の作品を読み、物語の内容や主題を紹介カードにまとめさせた。その結果、同じ作者の他の作品を読むことで、作者の生き方や考え方について理解し、読みを広げることにつながることができた。

III 実践を通して大切にしたいこと

叙述を基に自分の考えを書き、話すということを意識させてきた。それは、自分の考えの根拠となるところを本文中から探し出させることにより、読みを深めることにつながると考えるからである。ほとんどの子どもが、自分の考えを書き、発表することができるようになってきているが、発表し合ったことを交流しながら読みを深めるということが必要である。